

第19回全日本学生剣道オープン大会 要項

1. 日 時

1日目 令和7年12月20日（土）午前9時 開会式

2日目 令和7年12月21日（日）午前9時 開始

2. 場 所

ジップアリーナ岡山

岡山県岡山市北区いずみ町富沢1丁目1-3 Tel 086-253-3944

3. 主 催

全日本学生剣道連盟

4. 後 援

スポーツ庁、公益財団法人全日本剣道連盟、公益財団法人日本武道館

（予定）

岡山県 岡山県教育委員会 岡山市 岡山市教育委員会
毎日新聞社岡山支局 公益財団法人岡山県スポーツ協会
公益社団法人おかやま観光コンベンション協会
一般財団法人岡山県剣道連盟
全日本学連剣友会 中四国学連剣友会

5. 主 管

中四国学生剣道連盟

6. 試合種目

弐段以下の部 男子・女子 個人試合

参段以上の部 男子・女子 団体試合

7. 試合方法

【弐段以下の部 男子・女子 個人試合】

予選リーグを行い、各リーグ1位により決勝トーナメントを行う。

1) 予選リーグ

- ・男子3分三本勝負、女子3分三本勝負とし、勝敗の決しない場合には引き分けとする。

- ・リーグは4名または3名の予選リーグを行い、1名が決勝トーナメントへ進出する。4名リーグの場合は総当たりではなく、リーグ内で2試合を行い、順位を決定する。3名リーグの場合は総当たりとする。

- ・4名の予選リーグにて欠場が発生し3名のリーグ戦になった場合は総当たりとする。

- ・各リーグにおける順位決定は勝ち点（勝ち3点、引き分け1点、負け

0点)による。

- ・勝ち点が同数の場合は取得本数により決する。
- ・取得本数も同数の場合には決勝トーナメント進出決定戦を行う。
- ・決定戦は以下の方法によって行い、勝敗の決しない時は延長戦を3分で区切り勝敗が決するまで行う。

○2名の勝ち点・取得本数が同数の場合

- ・3分一本勝負

○3名の勝ち点・取得本数が同数の場合

- ・3分一本勝負
- ・トーナメント戦(但し1名シード)

○4名の勝ち点・取得本数が同数の場合

- ・3分一本勝負
- ・トーナメント戦

なお、トーナメント戦は抽選とする。

2) 決勝トーナメント

- ・試合は男子3分三本勝負、女子3分三本勝負とし、勝敗の決しない場合は延長戦を行う。延長戦は3分で区切り、勝敗が決するまで行う。

【参段以上の部 男子・女子 団体試合】

各大学3～4名の選手を登録することにより、チームを編成する。

試合は3人制の予選リーグを行い、各リーグ1位により決勝トーナメントを行う。

メンバーの変更は認めない。但し、オーダーの変更は自由とする。

1) 予選リーグ

- ・男子3分三本勝負、女子3分三本勝負とし、勝敗の決しない場合には引き分けとする。団体試合の勝敗は勝者数により決する。勝者数が同数の場合は総本数により決する。総本数が同数の場合は引き分けとする。
- ・リーグは4チームまたは3チームの予選リーグを行い、1チームが決勝トーナメントへ進出する。4チームの予選リーグは総当たりではなく、リーグ内で2試合を行い、順位を決定する。3チームの場合は総当たりとする。
- ・4チームリーグ戦で欠場が発生し3チームのリーグになった場合は、総当たりとする。
- ・各リーグにおける順位決定は勝ち点(勝ち3点、引き分け1点、負け0点)による。
- ・勝ち点が同点の場合は勝者数により決する、勝者数も同数の場合は総

本数により決する。

- ・総本数も同数の場合には、代表者 1 人による決勝トーナメント進出決定戦を行う。
- ・決定戦は、以下の方法により 3 分一本勝負とし、勝敗の決しない場合は延長戦を行う。延長戦は 3 分で区切り、勝敗が決するまで行う。トーナメント戦は抽選とする。

○ 2 チームの勝ち点・総本数が同数の場合

・決定戦

○ 3 チームの勝ち点・総本数が同数の場合

・トーナメント戦（但し 1 名シード）

○ 4 チームの勝ち点・総本数が同数の場合

・トーナメント戦

2) 決勝トーナメント

- ・ 3 分三本勝負とし、勝敗の決しない場合には引き分けとする。団体試合の勝敗は勝者数により決する。勝者数が同数の場合は総取得本数により決する。総取得本数が同数の場合は代表者戦により決する。
- ・代表者戦は 3 分一本勝負とし、勝敗が決しない場合は延長戦を行う。延長戦は 3 分で区切り、勝敗の決するまで行う。

8. 試合・審判規則 全日本剣道連盟剣道試合・審判規則、剣道試合・審判細則、運営要領、新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法並びに本大会申し合わせ事項に準じて行う。

9. 審判員構成 全日本学生剣道連盟加盟大学の卒業生を以って構成することを原則とする。

10. 出場資格 登録試合者は全日本学生剣道連盟加盟大学の学生で、各地域連盟に登録している者に限る。登録できる回数は 4 回までとし、以下の大学については次のとおりとする。

- 1) 6 年制大学並びに 6 年制学部学科の学生は 6 回まで
- 2) 5 年制学部学科の学生は 5 回まで
- 3) 3 年制短期大学並びに 3 年制学部学科の学生は 3 回まで
- 4) 短期大学の学生は 2 回まで

但し、在学中に学生剣道大会以外の各職大会に出場した者の出場は認めない。

<国際交流・国内在住留学生のオープン参加にかかる参加資格について>

- ・令和7年10月1日時点で日本国内の大学（大学院含）剣道部に所属する外国籍の留学生であること。
- ・参加を希望する留学生は、本人の安全と日本国内での身分を保証する個人・団体として、所属する大学剣道部監督（又は同等の剣道団体責任者）の参加了承を要する。
- ・上記の条件が満たされる場合、全日本学生剣道連盟への登録がなくてもオープン大会への参加・出場を認める。
- ・学部生、大学院生を問わず6回までとする。（年齢制限なし）

<国際交流・海外招聘選手(国内在住学生)のオープン参加にかかる参加資格について>

- ・各国に在住する大学生及び大学院生であること。（年齢制限なし）
- ・全日本学生剣道連盟関係者または国際交流のある大学が身分を保証する者。

11. 表彰

式段以下の部：優勝 準優勝 3位（2名）敢闘賞（ベスト8・4名）

参段以上の部：優勝 準優勝 3位（2チーム）敢闘賞（ベスト8・4チーム）

大会申し合せ事項

1. 登録について

- 1) 試合に出場する選手は指定された期日までに所属連盟に選手登録をしなければならない。
- 2) 不正登録により選手資格を得た者はこれを取り消す。

2. 名札について

大学名及び個人名を記入した名札を着用しない選手は出場できない。同じ大学に同姓者がいる場合は、苗字の右下に名前の1文字を入れること。なお、上記の該当する選手が発覚した場合は、不正用具使用者として扱い、その試合を負けとし、相手に2本を与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。

3. 竹刀に関して

- 1) 竹刀検査は、所定時間内に竹刀検査所において検査済みシールの貼付を受けること。
- 2) 竹刀検査は、別紙の「竹刀検査要領」に沿って実施する。男女共、大会前日（金曜日）及び1日目（土曜日）に竹刀検査所にて行うこと。但し、特別な事情がある場合、21日にも検査を受けることができる。
- 3) 竹刀は、柄に大学名・名前のみを明記したものとし、検査の対象は一人3本（二刀の場合、大小各3本）までとする。
- 4) 鐙は、皮革又は化学製品の円形のものとし、直径は9センチメートル以下とする。なお、鐙止めを必ず使用し、鐙を正しく所定の位置に固定すること。
- 5) 規格外竹刀の使用が発覚した場合は、その試合を負けとし、相手に2本を与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。

4. 団体試合でオーダー表の通りに出場しない場合

提出されたオーダー表通りに出場していない選手が発覚した場合、その該当する試合を負けとし、相手に2本を与え、既得本数及び既得権を認めない。

5. 剣道用具等について

- 1) 面については、肩関節の保護ができる面ぶとんの長さが確保されていること。面紐の長さは結び目から40cm以下とし、違反者に対してはその場で切断する。面紐の結び目の位置は、目の後方の後頭部中央部分とし、大会中、結び目の位置が安全性に支障があると判断した場合は、締め直しをする。
- 2) 小手ぶとんは、前腕の1/2以上を保護しているものとし、えぐり（クリ）の深さは2.5cm以内とする。
- 3) 剣道着の袖の長さは、自然に構えた状態で、「肘」が完全に隠れて袖口から露出しないものとする。但し、袖が小手ぶとんにかからない程度とする。
- 4) サポーター等の使用は、医療上必要と認める場合に限り、見苦しくなく、かつ相手に危害を加えない範囲において、これを認める。使用する場合は、事前に確認証を提出すること。テーピングの使用については、不要とする。また、新たに必要になった場合は届け出ること。

6. その他

- 1) 監督不在の場合、団体戦において同一大学から3チーム以上出場する場合、個人戦において3名以上出場する場合は、監督代理人を1名たてることができる。但し、監督代理人は事前に届けられた者とする。
- 2) 選手の付添いは1会場につき1名までとし、監督（または監督代理人）、主務の任に当たるもののみ認める。なお、複数の試合場で同一大学の選手の試合が行われている場合の付き添いは、1試合場につき監督または主務の1名までとし、それ以外は事前に本部に届けられた監督代理人とする。
- 3) 頭髮が長い場合は、髪を束ねて、背中を目印にかからないようにする。
- 4) ミサंगा、パワーバランスなどの剣道に必要なものはつけない。
- 5) 本大会は全剣連の「感染症予防ガイドライン」（2024.9.1施行）に基づき安全な運営に努める。
- 6) 選手は感染症防止のため、マスクもしくはシールドのどちらかを着用すること。